

研究成果の公表方法について

1. 公表する研究成果関係資料

- ・ 研究終了報告書
- ・ 研究概要
- ・ 成果報告レポート

ISSN 1883-3594

研究終了報告書

【様式1】

道路政策の質の向上に資する技術研究開発

【研究終了報告書】

①研究代表者		氏名	所属	役職	
氏名					
②研究テーマ		研究課題 (学術分野/中核実用技術/社会実用技術)	公募 (公募/非公募)	タイプ	
③研究経費		平成12年度	平成13年度	平成14年度	総合計
④研究者氏名		研究に携わった各研究者の氏名、所属、役職を記入する(氏名、住所欄で足りない場合は別紙に添付してください。)			
氏名		所属	役職		
⑤研究の目的・目標		研究を実施した研究の目的・目標を記入する(氏名、住所欄で足りない場合は別紙に添付してください。)			

研究概要

【様式3】

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成21年度採択)

研究概要

番号	研究課題名	研究代表者
No.21-1	道路交通の時間経緯に関する研究	東京大学准教授 加藤 浩徳

道路プロジェクト評価を実施するためには、交通の時間経緯の実態把握とより詳細な研究目的として、国内外の交通の時間経緯のレビュー・データベース化、我が国における道路交通の時間経緯の測定および推定方法の検討、我が国における交通の時間経緯測定に関する論点の整理を実施する研究開発。

1. 研究の意義・目的 (研究開始当初の背景・動機、目標等)
交通の時間経緯は、道路プロジェクト評価の費用算定分析において、時間経緯の効果を評価する上で重要な指標である。従来、我が国では、適切な研究状況が未だ存在する。公平な公共交通に対する社会的要請が高まつつある。交通の時間経緯に対する一層の関心も高まっている。
そこで、本研究は、次の3点を目的とするものである。
(1)国内外の交通の時間経緯のデータベース化
(2)我が国における道路交通の時間経緯の測定および推定方法の検討
(3)我が国における交通の時間経緯測定の方法についての検討

2. 3年間の研究内容 (研究の方法・経緯等)
(1)1年目: 国内外の交通の時間経緯に関するデータベース化に交通の時間経緯のメタ分析、高米を中心とした我が国の交通の時間経緯に関するデータベース、道路交通の時間経緯測定のためのデータ収集・ソフトウェアを開発した。
(2)2年目: データを用いた我が国の道路交通の時間経緯の推定、高米の交通の時間経緯の実態に関する調査、道路プロジェクトを用いた交通の時間経緯測定における調査手法の研究開発を実施した。
(3)3年目: 評価データベースを活用した交通の時間経緯推定のケーススタディの実施、我が国における交通の時間経緯推定の考え方の検討を行い、最終的に成果を報告書としてまとめた。

3. 研究成果 (成果・卒業生を顕彰し、誇りや士気を高める)
まず、交通の時間経緯の定義とその重要性が示された。また、従来として、交通の時間経緯に関する理論的、実務的な研究が一歩進んだことが明らかになった。
次に、交通の時間経緯に関する既往研究のレビュー・研究課題が示された。1966年から研究が始められ、学術的研究が中心である一方で、交通の時間経緯の議論は、これまでにも幾度も見られるが、道路、交通の時間経緯に関する研究は進行中であることが明らかになった。
交通の時間経緯に関する理論的実証が整理された。車路交通と歩行者交通では、意思決定の主体が、その意思決定要因が本質的に異なる可能性があるため、交通の時間経緯は異なるモデルによって説明されることが示された。
それを受けて、我が国の交通の時間経緯に関する実証分析が行われた。道路交通と歩行者交通を用いた我が国の「時」-「空間」の時間経緯測定、我が国の交通行動分析に関する研究がデータベース化し、それをもとにした交通の時間経緯に関するメタ分析、SP-データベースを用いた交通の時間経緯推定の実態可能性の検討が行われた。
交通プロジェクトにおける交通の時間経緯の測定について調査・検討が行われた。日本米の各国におけるデータベースが比較され、その違いについての考察が行われた。
最後に、以上を踏まえて、交通の時間経緯に関する論点が整理された。ここでは、目的別時間経緯推定、高米歩行者交通の時間経緯推定、時間経緯の進化、車路歩行者時間経緯の関与などが論点として挙げられた。

成果報告レポート

ISSN 1883-3594
No. 17-0



道路政策の質の向上に資する技術研究開発
成果報告レポート
No. 17-0

研究テーマ
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

平成〇年〇月

研究代表者: ○○○○○○○ ○○○○
共同研究者: ○○○○○○○ ○○○○

新 道 路 技 術 会 議

2. 研究成果の公表方法

- ・ 事後評価結果については、公表資料とともに新道路技術会議のホームページ上において、PDF形式で掲載するなどにより公表
- ・ 成果報告レポートについては、冊子を作成し、国立国会図書館、国土交通省（図書館、道路局）、国土技術政策総合研究所（図書館、道路研究部）にて保管し、閲覧できるようにするとともに、ISSN番号を取得
(ISSN 1883-3594 道路政策の質の向上に資する技術研究開発成果報告レポート)
- ・ 事後評価が「A」評価となった案件については、「優秀技術研究開発賞」として表彰するとともに記念品（表彰盾）を贈呈